

* ゴーチェ子午環子午線票室探検 (その2)

アーカイブ室新聞 110号でゴーチェ子午環子午線票室探検の記事を書いた。しかし、この探検は十分な気合を入れずに出かけ、なんとか子午線票室に入ったが、あまりの不気味さと「べんじょこおろぎ」ともいわれる「かまどうま」の襲撃に早々に退散してしまったし、子午線票のある2階部分にしか踏み込まなかったため、改めて1階部分を含めて探検しようと思っかけて行った。1階のドアを開いた証拠が写真1である。



写真1 ゴーチェ子午環子午線票室の1階の扉を開けた

1階の扉の痛みは2階の扉ほどではなく、難なく開くことができた。1階には、昨日のような「かまどうま」はいなかったため、その襲撃を受けることはなかった。この子午線票室の中がどのような状態になっているかは、以前、原 寿男氏（元子午線部職員）から聞いていたが、その通りであった。1階の床は、入口の扉の下から、更に1mばかり低い所にあるので、穴の底から2階の床の穴を突き抜けた背の高いコンクリートピアが聳えているのである。しかし2階の床の穴はやっとピアが突き抜けられるほどの穴しか開いていないから、1階から聳えているという感じではない（写真2）。1階床には、腐った板切れのようなものと、電線状のものが僅かにあるのみで、ただピアが立ち上がっているのみであった。手袋もしていなかったため、穴になった床に飛び降りることはしなかった。この建物に人が入ったのは何十年かぶりであったろう。お宝はなかった。残念！



写真2 ゴーチェ子午環子午線票室1階から立ち上がったピア

改めて、2階にも入った。今日は「かまどうま」の来襲は分かっていたので、臆することはない。天井の隅に数え切れない「かまどうま」がおり（写真3）、その他にも「ごきぶり」、「げじげじ」、「やもり」がいることが分かった。2階の床に足を踏み入れたとたん、天井からバラバラと「かまどうま」が床に飛び降りてくるのである。



写真3 天井の隅にうじゃうじゃといる「かまどうま」



写真4 壁を這う「ヤモリ」



写真5 壁を這う「げじげじ」

写真5は、壁をのそのそと這う「ヤモリ」、写真5はやたら這い回る「げじげじ」である。このほかにゴキブリと思われるものが這い回っていたが、真冬で眠っていたところに飛んだ邪魔者が新入してきたという事だろう。

2階には、電灯の残骸が1個転がっていた（写真6）。



写真6 2階の床奥に転がっている電灯の残骸
今一度、ゴーチェ子午環子午線票（写真7）である。



写真7 ゴーチェ子午環北子午線票